

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和 7 年 1 月 22 日

三田市議会議員 福田秀章 様

本会派は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	創志会		代表者	幸田安司
			議員名	
派遣者氏名	幸田安司 福田秀章 今北義明 小杉崇浩 坪之内幸司 假屋浩司			
視 察 先	① 衆議院第一議員会館（内閣府、農林水産省） ② 衆議院第一議員会館（文部科学省） ③ 愛知県半田市（新半田病院）			
調 査 事 項 (調査目的)	① デジタル田園都市国家構想総合戦略について ② 教育DXによる教育改革について ③ 半田市立半田病院と常滑市民病院の経営統合と新病院の運営について			
日 時	令和7年1月20日（月曜日）～令和7年1月22日（水曜日）			
支 払 金 内 訳	科 目	支出額	摘 要	
	宿 泊 料	162,000	13,500円×6名分×2泊分=162,000円	
	日 当	54,000	3,000円×6人×3日分=54,000円	
	鉄 道 賃 等	220,380	1月20日（月）	
			【三田駅→国会議事堂前駅】 乗車券 9,460円×6人=56,760円（JR） 特急券 5,610円×6人=33,660円（JR） 乗車券 180円×6人=1,080円（東京メトロ）	
			1月21日（火）	
			【国会議事堂前駅→名古屋駅】 乗車券 180円×6人=1,080円（東京メトロ） 乗車券 6,380円×6人=38,280円（JR） 指定席 4,720円×6人=28,320円（JR）	
1月22日（水）		【名古屋駅→知多半田駅】 乗車券 750円×6人=4,500円（名鉄名古屋本線）		
【知多半田駅→新半田病院】タクシー 2,930円+2,630円=5,560円		【新半田病院→知多半田駅】タクシー 2,530円+2,530円=5,060円		
【知多半田駅→三田駅】 乗車券 750円×6人=4,500円（名鉄名古屋本線） 乗車券 4,070円×6人=24,420円（JR） 特急券 2,860円×6人=17,160円（JR）				
そ の 他	8,120	お土産代 2,030円×4カ所		
合 計	444,500			
備 考	別紙（領収書あり）			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年2月7日

三田市議会議長 福田秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	創志会	代表者	幸田 安司
		議員名	
派遣者氏名	幸田安司、今北義明、小杉崇浩、福田秀章、假屋浩司、坪之内幸司		
視 察 先	① 衆議院第二議員会館（内閣府）（農林水産省） ② 衆議院第二議員会館（文部科学省） ① 愛知県半田市（知多半島総合医療センター）		
調査事項 （調査目的）	① デジタル田園都市国家構想総合戦略について ② 教育DXによる教育改革について ① 半田市立半田病院と常滑市民病院の経営統合及び新病院の運営について		
日 時	令和7年1月20日（月曜日）～令和7年1月22日（水曜日）		
視察先対応者	① 衆議院第二議員会館 （内閣府） 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局参事官補佐 加藤卓様 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 内閣府地方創生推進事務局 藤澤英俊様 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局参事官補佐 佐藤弘康様 （農林水産省） 農村振興局農村政策部農村計画課農村活性化推進室 課長補佐 有馬伸明様 農産局技術普及課農業支援サービス推進専門官 滝本陽一様 ② 衆議院第二議員会館 （文部科学省） 総合教育政策局教育DX推進室室長補佐 稲葉めぐみ様 初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチーム		

	<p style="text-align: center;">サブリーダー・課長補佐 渡辺洋平様</p> <p style="text-align: center;">初等中等教育局児童生徒課企画係長 高橋志織様</p> <p>③ 愛知県半田市</p> <p style="margin-left: 40px;">半田市立半田病院</p> <p style="margin-left: 40px;">半田市議会総務委員</p> <table style="margin-left: 100px; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">事務局長</td> <td>坂元照幸様</td> </tr> <tr> <td>管理課長</td> <td>柳原 崇様</td> </tr> <tr> <td>管理課主幹</td> <td>青木賢治様</td> </tr> <tr> <td>管理課主幹</td> <td>永井 徹様</td> </tr> <tr> <td>委員長</td> <td>國弘秀幸様</td> </tr> </table>	事務局長	坂元照幸様	管理課長	柳原 崇様	管理課主幹	青木賢治様	管理課主幹	永井 徹様	委員長	國弘秀幸様
事務局長	坂元照幸様										
管理課長	柳原 崇様										
管理課主幹	青木賢治様										
管理課主幹	永井 徹様										
委員長	國弘秀幸様										
添付資料	<p>当日配布資料添付</p> <p>当日写真</p>										

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

---

調査日時	令和7年1月21日（火曜日）10：00～11：00
視察先	衆議院第二議員会館（内閣府）（ <u>農林水産省</u> ）
調査事項	デジタル田園都市国家構想総合戦略について
<p>（調査結果の概要）</p> <p>【説明と質疑】</p> <p>資料に基づき説明（添付資料参照）をいただいた後、質疑を行った。</p> <p>●説明</p> <p>これまでの地方創生の取組について、・地方創生2.0の基本的な考え方について、・地方大学・地域産業創生交付金の活用について、・新しい地方経済・生活環境創生交付金について</p> <p>●質疑・意見</p> <p>質問：今後の更なる人口減少を見据えて考えられていますか。</p> <p>答弁：今後の人口減少は間違いないので、地方創生2.0では、地域の人口が減ってもドローンなどのデジタル技術を使って生活できるように考えていかなければいけない。</p> <p>意見：データにも出ていますが、女性が生活や子育て、教育などのし易い事が重要になって<sup>いる</sup>と思う。</p> <p>意見：大学や企業の本社が東京一極集中している。事業所を地方に出せる支援をして欲しい。都市毎にテーマを持って世代が流動的に動いて人口減少対策にはならないか。</p> <p>質問：地方大学・地域産業創生交付金は、大学と自治体に交付されるのですか？</p> <p>答弁：交付金は、自治体に交付し、自治体から大学や事業社に交付するシステムです。</p> <p>質問：主導は、自治体側で大学等に働きかけて行っていくのでしょうか？</p> <p>答弁：大学側から自治体に持ち掛けて行うことも可能です。但し、首長のリーダーシップでまとめていくので、自治体主導で行う方がやりやすい。</p> <p>質問：新規就農者は、5年間の補助金がなくなると続けることが難しく辞められるケースが多いのですがどうでしょうか？</p> <p>答弁：大学の交付金事業は、最大で10年ですが、その後自走することが課題です。最初の5年で社会実走し生産性を上げるのところまで支援するシステム構築をする仕組みづくりが必要と考えている。</p> <p>●所見</p> <p>明治維新以来の中央集権的な国家体制を見直し、新たな地方創生の在り方を模索する必要があります。これまでの取り組みは、東京圏への一極集中や人口減少の流れを根本的に変えるには至りませんでした。しかし、国民の価値観が多様化する現代において、地域やコミュニティの多様性こそが、多様な幸せを実現する鍵であると考えます。都市と地方という対立構造ではなく、地方が持つ魅力を再発見し、民の力を最大限に活かしながら、官民連携によって「楽しい地方」を創出していくことが求められます。</p>	

すべての人々が安心と安全を享受し、希望と幸せを実感できる社会を実現するために、持続可能で調和のとれた地域づくりを進めるべきです。そのためには、従来の枠組みにとらわれない大胆な発想と、多様な主体が協働する新たなアプローチが不可欠だと感じました。

調査日時	令和7年1月21日(火曜日) 11:00~11:30
視察先	衆議院第二議員会館(内閣府)(農林水産省)
調査事項	デジタル田園都市国家構想総合戦略について
<p>(調査結果の概要)</p> <p>【説明と質疑】</p> <p>資料に基づき説明(添付資料参照)をいただいた後、質疑を行った。</p> <p>●説明</p> <p>「デジ活」中山間地域について、産地生産基盤パワーアップ事業、担い手確保・経営強化支援事業、スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート緊急対策事業、スマート農業技術活用促進法</p> <p>●質疑・意見</p> <p>Q: スマート農業導入サポートについて、地域住民主体の組織でも農業を立ち上げてそのエリアの農業従事者への支援を行うことは可能でしょうか?</p> <p>A: 可能です。</p> <p>Q: 農福連携している団体への支援は可能でしょうか?</p> <p>A: 可能です。</p> <p>Q: 農業法人だけでなく農業オペレーターをされている方でも申請は可能でしょうか?</p> <p>A: 可能です。</p> <p>Q: 新規事業立ち上げでなく何年されていても可能なのでしょうか?</p> <p>A: 可能ですが、新たに面積を増やす等あれば申請できます。</p> <p>Q: 農業の立ち上げ調査だけでも支援を受けられるのでしょうか?</p> <p>A: 調査だけでも受けられます。</p> <p>Q: 遊休農地を減らすためにスマート農業対策事業を受けられるのでしょうか?</p> <p>A: ぜひ使ってほしい。</p> <p>Q: 農業支援サービスの人材供給型は、実際にされているところがありますか?</p> <p>A: YUIME(株)・アグリトリオ(株)など繁忙期の時に社員を派遣されている。その他、アプリで人材派遣するサービスが出てきている。 窓口の県庁や農政局、農産局技術普及課に相談してください。</p> <p>Q: 中山間地域の三田市で持続可能な農業を行っていくうえで、大規模農家に対する補助金はあるが、小規模農家にも補助金を設けて欲しい。</p> <p>A: 地域計画を作り、問題意識をもって小規模農家に対して考えていきます。</p> <p>Q: お茶農家では、機械技術がスマート農業化できない分野にも補助できるようにして欲しい。</p>	

A：機械化が進んでいない分野も検討していきます。

Q：市町村単位での登録でしょうか？

A：すべての農業が対象で各集落、地区ごとで可能ですが、必ず市町村を通していただきたい。

●所見

視察において、三田市が「デジ活」中山間地域として登録された取り組みについて確認しました。三田市では、中山間地域の農山漁村が基幹産業である農林水産業を軸に、地域資源やデジタル技術を活用することで新たな仕事づくりを推進しています。この取り組みでは、農林水産業従事者に加え、多様な内外の人材を巻き込み、地域の活力を創出している点が特徴的です。

また、デジタル技術の活用による効率的な生産活動や販路の拡大が進められ、地域の生活基盤の強化・充実にも寄与しています。これにより、人口減少や高齢化などの社会課題に対する解決策を模索していることが明確に見受けられました。

視察を通じて、こうした取り組みが持続可能な地域社会の構築に向けた一つのモデルとして、他地域への波及効果を期待できるものであると実感しました。今後も、地域資源やデジタル技術を活用した多角的な取り組みが進むことを期待します。

調査日時

令和7年1月21日（火曜日）13:15～14:15

視察先 衆議院第二議員会館（第2議員会館918）

教育DXによる教育改革について

（調査結果の概要）

【説明と質疑】

資料に基づき説明（添付資料参照）をいただいた後、質疑を行った。

●説明

これまでの教育DXによる教育改革の取組について  
国策としてのGIGAスクール構想の更なる推進について

●質疑

Q デジタル機器の使用による教員の負担はどのような変化が起きるか？

A 端末を使用することにより一括配信等が可能になり事務作業の負担が減った。

Q 教育データの利活用でどのように変わりますか？

A 子供の視点では自身の学びや成長の記録を一目で振り返り、強みや弱点を簡単に把握することが可能になり、学びを広げ補うことができる。

また、学びの保障への効果として（自宅待機、不登校、病気治療等）休校ではなくとも授業はデフォルトで中継でき、授業に参加できる。

Q 教員の方は？

A 子供一人ひとりに関する様々なデータを一目で把握でき、ノーマークだった児童生徒を早期発見支援ができ、転校・進学前の子どもの様子がわかる。

教員自身もこれまでの経験・知見を照合するなど、グッドプラクティスを共有し指導改善に活用できる。

Q 個人情報の取り扱いはどうしていくのか？

A セキュリティ対策を行うと同時に使用者のスキルアップと理解を深めて行く。

【所見】

文部科学省からの説明によると、「誰一人取り残されない学びの保障」が実現可能となり、不登校児童生徒への学習支援が授業配信などを通じて行われているとのことでした。また、特別な支援を要する児童生徒に対する学習支援も、8割以上の学校で実施可能との報告がありました。

三田市としても、GIGAスクール構想を積極的に推進し、教育のデジタル化をさらに展開すべきと感じました。特に、自治体が教育データを利活用することで、教員が児童生徒への学習指導に役立てられるとともに、校務負担の軽減にもつながるとされています。もし三田市でもこの取り組みが教育委員会や教職員の負担軽減に寄与するのであれば、率先して導入するべきだと考えます。

今後の課題として、教育データの利活用の意義やその必要性・有用性についての周知や認識の共有が重要視されており、三田市としても教育委員会を通じて、この取り組みの具体的なメリットや実現可能なビジョンを、学校や保護者に十分に理解してもらうことが求められると考えます。

今回の視察を通じて、国が進める教育改革や政策に対して、市全体がより強い関心を持ち、積極的に対応していくことの重要性を改めて痛感しました。

調査日時	令和7年1月22日（水曜日）12：45～15：30
視察先 知多半島総合医療センター	
調査事項 半田市立半田病院と常滑市民病院の経営統合と新病院の運営について	
<p>(調査結果の概要)</p> <p><b>【施設概要】</b></p> <p>名称：知多半島総合医療センター</p> <p>・建設地 半田市横山町地内 敷地面積 約39600㎡</p> <p>構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄筋コンクリート造</p> <p>階数 地上5階、地下1階建 建設面積 約11000㎡</p> <p>延床面積41000㎡（地下駐車場は除く）</p> <p>病床数 416床</p> <p><b>【説明と質疑】</b></p> <p>資料に基づき説明（添付資料参照）をいただいた後、質疑を行った。</p> <p>●説明</p> <p>半田市立半田病院と常滑市民病院の経営統合及び新病院の運営について</p> <p>新病院建設までの経緯（平成29年11月から令和4年11月）</p> <p>新病院建設までの経緯（運営主体）</p> <p>国・県補助金について</p> <p>職員への対応について</p> <p>●質疑</p> <p>Q 建設費用が予算額にくらべて最終的にどのようになったか？</p> <p>A 建設場所の見直しにより1年間工事が遅れた経緯もあり25%の増額となった。</p> <p>Q 25%の内訳をお聞かせ下さい。</p> <p>A 工期延長による人件費、物価高騰による資材費の減額のために何度も繰り返し建設費の見直しを行い最終的に建設費25%増で抑えることができた。</p> <p>Q 医師の確保は？</p> <p>A 名古屋大学からの派遣</p> <p>Q 年間の救急車の受け入れ件数は？</p> <p>A 現在、年間9000台を受け入れている。</p> <p>Q 病院までのアクセス方は？</p> <p>A 地域交通で名鉄知多半田駅より1時間に3本バスを往復させる。</p> <p>料金は駅から病院まで片道100円 また、路線空白地帯には半田市民限定にて1000円の料金を予定しています。</p> <p>Q 病院スタッフの通勤方法は？</p> <p>A 全体の97%が車通勤 駐車場は715台あり</p> <p>Q スタッフ間の研修期間は？</p> <p>A 3年前から両病院間にてスタッフの派遣を行い意見交換行っている。</p> <p><b>【所見】</b></p> <p>半田市立半田病院と常滑市民病院が経営統合し、新たに知多半島総合医療センターが設立されました。</p>	

新病院は、救命救急センターを中心に高度急性期医療やがん治療（化学療法、放射線治療、手術治療）を集中的に担う計画であり、地域の災害拠点病院としての役割も果たすとのことでした。これに伴い、救急搬送の円滑化を図るための道路整備や、屋上ヘリポートも設置されていることが確認されました。

三田市としてももう一度、市民に新病院建設の意義を明確に伝える必要があると感じました。

病院の建設過程では、予定地に不具合が発生したため場所を再選定し、これにより工期が1年遅延し、物価が15%上昇する事態に直面しました。しかし、幾度となく見直しが行われた結果、最終的なコスト増加率は25%に抑えることができたとのことでした。施設内では各エリアにモデルルームを設置し、スタッフが集まり、コンセントの配置やその他の設計について現場の意見を反映させる取り組みが進められていることも伺いました。

また、担当者からは、建設が遅れると多大な費用が発生するため、工期を守り、計画に基づいて着実に進めることの重要性が強調されていました。

三田は2年の遅れが生じており予算の見直しも含めて大幅な増額が予想された。

さらに、常滑市民病院は「知多半島りんくう病院」に改称し、地域での終末期医療や回復期リハビリテーション医療を提供するほか、在宅医療や地域包括ケアに力を入れる病院としての役割を果たす予定です。平日日中の急性期外来対応も行う方針で、地域住民にとって重要な医療機関となる見込みです。

三田市民病院跡地の利用方法としての参考になった。

今回の視察を通じて、医療体制の整備と効率的な運営がいかに地域社会にとって重要であるかを改めて認識しました。三田市においても、各課に担当のエキスパートを配置し、迅速かつ適切な対応が必要であると痛感しました。